

職員による自己評価

A環境面

指導訓練室等のスペース及び、職員の配置数に関しては十分な状態と評価となっていたが、設備に関し、トイレ付近などは段差がある事、手すりの設置はないなどの事から、どちらともいえないとの意見があった。しかし、基本的には重度の知的障がい児の受け入れをしている為、大半の意見としては適切であるとの意見であった。

B児童への支援内容

支援計画の作成、記録、モニタリングなどの作成に関し、徹底はできているとの意見が大半であったが、その他質問項目に関し、「はい」と「どちらともいえない」との意見が分かれていた。

C関係機関との連携

障害児相談支援事業所のサービス担当者会議の参画はできているとの意見があったが、Bと同様に、どの質問項目に関しても、「はい」と「どちらともいえない」との意見が分かれていた。

D保護者への説明責任・信頼関係

運営規定、支援内容、利用者負担等などの説明、湖心情報の取り扱いに関しては、十分にできているとの評価であった。その他の質問項目に関しては、「どちらともいえない」との意見があった。

E非常対応

避難訓練、身体拘束、アレルギーなど、「どちらともいえない」との意見が大半であった。

保護者による評価

A環境面

環境面、体制面では大半の意見では適切との意見であった。しかし、若干数の方が職員配置、設備面での質問内容で、「どちらともいえない」との意見があった。

B児童への支援内容

どの質問内容に関しても適切との意見が多くあったが、父母の会の活動や保護者会などの開催に関しては「どちらともいえない」との意見が多くあった。

C事業所からの情報発信

大半の質問内容で十分にできているとのことであったが、1/3ほどの方が、「どちらともいえない」との意見があった。

D非常対応

訓練に関しては実施ができていると多くの意見があった。マニュアル関係に関しては、「どちらともいえない」と半数の意見があった。

事業所内での分析

【共通点】

多くの質問項目で、「どちらともいえない」との意見が多くあった、本年度の10月から事業所開設をしており、職員、保護者ともに整備ができている面があっても認識ができていなかった事が考えられる。その為、どの面でも職員育成、保護者への説明に関しての不足している事が分析できる。

【相違点】

環境・体制整備、支援の提供に関し、保護者からの意見では適切にできているとの意見が多くあったが、職員による自己評価では、「どちらともいえない」との意見が多くあった。支援計画に関しては適切に作成できているとの意見がある事から、職員がアセスメント、支援計画等の内容を意識した支援が実施できていない事、それにより全面的にチームでのアプローチが不十分な面が分析できる。

分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- 障がい特性に応じた環境面、体制面では十分な状態。
- 支援計画、記録、モニタリングに関しては十分にできている。

### 事業所の改善点

- ひとりひとりの職員が障害、サービスの目的、重度の知的障がい者及び、地域生活が困難となっている児童を支援への理解をし、支援できるように職員育成及び、保護者への説明が改善点である。

### 事業所の改善への取り組み

本年度10月から事業所を開設し、年度中に新しい指導員が入社している。その中、障害分野の経験が乏しく、障害特性、障害理解が不十分である。その為、日々の中での支援の経験をしていく事と、管理者を中心にアセスメント、支援計画の内容を十分に理解できるよう定例となっている日々のミーティング、個別支援会議、虐待防止研修（権利擁護含む）にて職員育成を努めていく。その中、客観的な視点で児童のニーズを見出し、適切な支援を実施できる事と、どの職員が保護者へ適切な説明ができるように努めていく。

事業所名 放課後等デイサービス en 東戸塚

担当者 管理者 中原 裕介